

(別添)

システムリスクの総点検について

1. 今回の主要行のひとつで見られたシステム障害は、
 - ① 長年、安定的に稼働していたシステムにおいて、外部環境の変化がもたらす処理データの規模や集中度の増大を契機に障害が発生し、その後の復旧対応が不適切であったことから、影響が拡大したこと、
 - ② その背景として、経営陣の初動の遅れを要因とした危機管理体制の問題、システム投資戦略やシステムコンティンジェンシープランの整備といった取組みが不十分であったことが認められること、
 - ③ 結果として、利用者利便や社会的に大きな影響を与えていることなどの特色を有している。

その原因については、固有の事情もあったことは事実であるが、それとは別に、各金融機関としても活かすべき有益な教訓があると思われる。そうした観点から、各金融機関においても、使用するシステムについて再度総点検をして頂く必要があると考えられる。

2. 具体的には、下記の点について、総点検をして頂きたい。

(1) システムリスクに対する認識等

- ① 経営陣は、システム障害の未然防止と障害発生時の拡大防止について、経営上の重大な課題と認識しているか。(下記(2)、(3)関連)
- ② システム障害発生時において経営陣の果たすべき責任やとるべき対応について、平時から明確にしているか。(下記(4)関連)

(2) 外部環境の変化を踏まえたシステムの十分性の確保等

最近の金融取引を巡る技術革新のスピードは速く、例えば、インターネットや携帯電話を介した取引等の顧客チャネルの多様化による大量取引の発生や内外のシステム連携による障害発生時の影響の複雑化・広範化が進んでいるなど、システム導入時から外部環境が大きく変化し、システムが直面するリスクも多様化している。

- ① このような外部環境の変化を踏まえ、自らのシステムにどのようなリスクが生じ得るか検討しているか。
- ② ①で洗い出したリスクに対し、現行システムは十分に対応しているか。
- ③ 新商品導入に伴い、システム上のリスクを十分分析しているか。
- ④ 環境変化に対応し、機能や処理能力などのシステム要件を見直しているか(環境変化に伴い新たに必要となるシステム要件を見逃していないか)。
- ⑤ システムの誤操作や障害時の復旧対応を考慮した仕組みはあるか。

(3) システム投資(人材配置・人材教育を含む)に関する経営戦略について

- ① 現行システムと次期システムの双方について、どのように経営戦略上に位置付けるかを明確にしているか
- ② 上記(2)のリスク分析で明らかになった現行システムに内在するリスクを踏まえた維持・改善投資(人材配置・人材教育を含む)が必要であるが、そうした投資が中長期的視点から計画的に行われているか。
- ③ 現行のシステムを適切に維持・管理しながら、次期システムを計画的に開発することとしているか。

(4) 障害発生時等のリスク管理態勢のあり方

- ① 障害発生時の指揮・命令系統が明確になっているか。
- ② 適切なシステム障害報告態勢が確保されているか。
- ③ システム障害発生時における顧客対応態勢が整備されているか。
- ④ 必要な人材の計画的育成・適材適所の人事配置が達成されているか。
- ⑤ コンティンジェンシープランについて、実践的なリスクシナリオを想定したものになっているか。特に、災害に留まらず、システムの誤操作や障害を想定したリスクシナリオを検討しているか。また、リスクシナリオの十分性を検証しているか。
- ⑥ コンティンジェンシープランの実効性を確保するための具体的な対応手順の整備・訓練が出来ているか。また、緊急時に中核となって復旧見通しが立てられる実務人材や陣頭指揮を執り得るマネジメント人材を招集できる体制を構築しているか。
- ⑦ 外部に業務委託をしている場合には、業務委託先の業務が適切に行われていることを確認しているか。また、業務委託先との連携の確保や役割分担・責任の明確化はなされているか。また、金融機関内部にも、システム全般について十分に理解をした人材が配置されているか。業務委託先に業務を全面的に依存していないか。

(5) 適切な監査体制の確保

上記着眼点について、その十分性を検証するための適切な内部監査体制が確保されているか。また、必要に応じ、外部監査を有効に活用しているか。

3. なお、今後、当局としては、上記の自己点検結果を踏まえ、検査監督において深度ある議論を行いたいと考えている。そのため、本年8月末を目処に、任意の様式で、自己点検の結果について御提出頂きたい。

(以上)